

Cisco Unified Communications Manager と Presence Server の不正アクセス脆弱性

High	アドバイザーID : cisco-sa-20070711-voip	CVE-2007-3776
	初公開日 : 2007-07-11 16:00	3776
	バージョン 1.0 : Final	CVE-2007-3775
	CVSSスコア : 7.0	2007-3775
	回避策 : Yes	
	Cisco バグ ID :	

日本語による情報は、英語による原文の非公式な翻訳であり、英語原文との間で内容の齟齬がある場合には、英語原文が優先します。

概要

Cisco Unified Communications Manager (CUCM) (以前の CallManager) および Cisco Unified Presence Server (CUPS) には 2 つの脆弱性があり、権限のない管理者が、CUCM/CUPS システム サービスをアクティブ化または終了したり、SNMP 設定情報にアクセスしたりできるようになります。結果として、CUCM/CUPS クラスタ システムに影響を与える Denial of service (DoS; サービス拒否) 状態になったり、コミュニティ文字列などの SNMP の機密情報が盗み出されたりします。

これらの脆弱性に対する回避策はありません。

Cisco では、該当するお客様用に、これらの脆弱性に対応する無償ソフトウェアを提供しております。

このアドバイザーは [711-voip](#) で掲示されます。

該当製品

修正済みソフトウェア

脆弱性を含む製品は次のとおりです。

- Cisco Unified CallManager 5.0 および 5.1(2) 以前の Communications Manager 5.1 バージョン
- 1.0(3) 以前の Cisco Unified Presence Server 1.0 バージョン

CUCM バージョン 5.x および CUPS バージョン 1.x を実行しているシステムでは、CUCM/CUPS Administration インターフェイスのメイン ページを見ることで、ソフトウェアのバージョンを確認できます。ソフトウェアのバージョンは、Command Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) で **show version active** コマンドを実行して確認することもできます。

脆弱性を含んでいないことが確認された製品

- Cisco Unified CallManager バージョン 3.3、4.0、4.1、4.2
- Cisco Unified Communications Manager バージョン 4.3、6.0
- Cisco Unified Presence Server バージョン 6.0

他のシスコ製品においてこのアドバイザリの影響を受けるものは、現在確認されていません。

改訂履歴

リビジョン 1.0	2007 年 7 月 11 日	初回公開リリース
-----------	-----------------------	----------

利用規約

本アドバイザリは無保証のものとしてご提供しており、いかなる種類の保証も示唆するものではありません。本アドバイザリの情報およびリンクの使用に関する責任の一切はそれらの使用者にあるものとします。また、シスコは本ドキュメントの内容を予告なしに変更したり、更新したりする権利を有します。

本アドバイザリの記述内容に関して情報配信の URL を省略し、単独の転載や意識を施した場合、当社が管理した情報とは見なされません。そうした情報は、事実誤認を引き起こしたり、重要な情報が欠落していたりする可能性があります。このドキュメントの情報は、シスコ製品のエンドユーザを対象としています。